

会 議 録

1 会議名

令和7年度第5回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

- ・ 令和7年度地区懇談会の開催結果（概要）について

○自主的審議事項（公開）

- ・ あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和7年8月21日（木）午後6時30分から午後8時8分まで

4 開催場所

牧区総合事務所 301会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名

- ・ 委 員：西山会長、清水副会長、池田委員、井上委員、梨本委員、西條委員、
羽深委員、宮内委員、横尾委員
- ・ 事 務 局：牧区総合事務所 小林所長、岩崎次長、清水市民生活・福祉G長兼教育
・ 文化G長（以下G長）、小暮地域振興班長、霜越地域振興班主事

8 発言の内容（要旨）

【岩崎次長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告

【西山会長】

- ・ 挨拶

【小林所長】

- ・挨拶

【西山会長】

- ・会議録署名委員として井上委員を指名

報告事項 令和7年度地区懇談会の開催結果概要について、事務局から説明をお願いする。

【小暮班長】

- ・資料 No. 1 に基づき、令和7年度地区懇談会の開催結果概要について説明

【西山会長】

今ほどの説明で、質問等があればお願いします。

【横尾委員】

説明の中で、棚広新田集落の電波状況が悪いという意見があったが、泉集落も携帯電話の電波が全く入らないので改善を要望する。過去に、携帯電話会社のカスタマーセンターに数回問合せを行ったこともあるが、「承った。上司に相談し、改善できるか検討してまいります。」というありきたりな回答しか得られなかった。

【小暮班長】

市では、携帯電話の電波などが入らない不感地域を把握しているが、まず棚広新田と泉がそれに含まれているかを確認した上で、市として電波状況の改善に向けてできることがあるのか、確認したい。住民の皆さんからも、引き続き事業者へ改善を要望する声を出していただきたい。

【小林所長】

携帯電話会社は、電波を受けるために、支柱を計画的に建てるなどの工夫をしているので、市として対応できるかどうかの約束はできないが、ご意見は事業者へおつなぎしたい。

【岩崎次長】

地域の皆さんからも継続的に事業者への要望をお願いしたい。

【井上委員】

今年度の地区懇談会は、会場を絞ったこともあって参加者が多く、いろいろな意見が出て良かったと思う。たくさん参考になる意見を聞くことができた。

また、体験・移住分野については、牧区に住みたいという人が、それなりにいるのだな、と感じられた。例えば、ある集落では、空き家だったところに2人が新たに住み始めたとか、別の集落では、少しの間だけ住むつもりだったという人が、現在も引っ越さずに住み続けているという状況を聞くことができ、今後の地域協議会の議論にも参考になるような話だったと思う。

今回、資料は全ての意見や質問が記されていないが、質問した方への回答はどのようにするのか。

【小暮班長】

今回の資料は出された主な意見を抜粋したもので、全てのご意見・ご質問は記載していない。個別に対応すべきものは、速やかに対応していくことにしている。また、町内会にも回覧で周知する。

【西山会長】

他に質問等はあるか。

(質問等なし)

質問等がないようなので、これで報告事項を終了する。

続いて、自主的審議事項 あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について、事務所から説明をお願いします。

【小暮班長】

・資料 No. 2に基づき、あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について説明

【西山会長】

今ほどの説明で、質問等があればお願いします。

(質問等なし)

質問等がないようなので、事務局から説明があったとおり、これより3つのテーマごとに必要だと思われる取組について、各委員から順番に意見を述べていただく。最初に体験・移住について、横尾委員から順番にお願いします。

【横尾委員】

「体験・移住」に関しては、以前は越後田舎体験で交流事業を行っていたが、これを今後も継続し、「牧区の人たちはこういうところで頑張っているんだよ」ということをア

ピールして、これに共感してもらえれば良いと思う。「農業・林業」についても、新たな取組や組織が生まれる必要があると思う。熱意を持って「なんとかしていこう」という人たちもいるので、その人たちをつなげ、牧区の農業をどうするかということを考えていかなければならない。

【羽深委員】

越後田舎体験がかつてよりも縮小してしまった。以前は、牧に来てくれた小学生を各家庭で泊めたりして、牧に触れてもらう機会になっていた。もう一度話し合いながら、田舎体験を拡充していければ、牧区で体験して触れ合う機会になり、移住にもつながってくるのではないかな。

また、空き家の情報整理については、どの町内会でこういう家がありますよ、というのがわかるようにしていくのが大事だと思う。移住者を受け入れる意向がある町内会から優先的に情報収集を始めてみてはどうか。

【西條委員】

まず資料については、これまで地域協議会で捉えてきたものが全て網羅されており、非常にわかりやすくなっている。よくまとめてくれたことに感謝する。

取組については、実際に牧区に移住された方と意見交換を行うことが重要だと思っている。実際に来られた方は、良いばかりではなく、困っていることもあるのではないかなと思われる。そういうことを踏まえて、どのような情報をどのように発信していけばいいのかにつながっていくのではないかなと考える。

また、移住者を受け入れたい町内会の調査については、移住者を受け入れることに消極的な町内会もあると思うので、町内会長連絡会議を通じて、各町内会長に協力をお願いしてみてもどうか。

【梨本委員】

先日、牧区の奥深いところに行ったら、東京から来たという女性のグループに出会って驚いた。話を聞くと、サウナに入って楽しんでいるというので、都会でできないことを田舎に求めてくるのだと感じた。田舎の良いところの情報を集めてPRしていくことが大事だと思った。

【井上委員】

西條委員と同様に、資料については非常にわかりやすい内容になっていると思う。

一方で、各テーマの上段にある標語は少し検討する余地があると思う。「牧区の姿に共感し、共に地域で暮らす仲間を増やす」というのは、気持ちはわかるが、「姿」に「共感」という言葉が、わかりづらいのではないかと感じた。共感とは、「他人の考えに対して全くそうだと感じること」とされている。「互いに尊重して暮らす仲間を増やす」くらいで良いのではないかと思う。

各取組では、空き家や町内会の情報収集については、町内会長連絡会議と連携するのが良いと思う。また、これは全くの思い付きで申し訳ないが、市町村合併後に東荒井に公営住宅が建設されたが、今は空きがある状態なので、そこを個別に売り出せば、長く住んでもらえる人が来てくれるのではないか。町内会の総会でそのように呼び込んではどうかなど話し合い、市に提案することはできると思うので、そういうことも含めて、町内会長連絡会議との連携が大事だと思う。

情報の収集や発信はとても大事であるので、ぜひ行っていただきたい。その動きとして、地域おこし協力隊や定住支援コーディネーターとの具体的な関わりをこの地域協議会で持っていければと思う。

【池田委員】

「体験・移住」については資料のとおり2つの柱があり、まずは情報をしっかり整理していく、そして情報があっても一回体験してもらわないと良さがわからない、という整理になったのだと思う。「体験・移住」は「農業・林業」にもつながる部分がある。以前行った意見交換会でも、「まきにいる」の皆さんから「面白いことがしたい」という声があったので、関係する団体の皆さんがどういうことができるか、ということ話を合っていければ良いと思う。

【清水副会長】

空き家の情報については、町内会長を通じた収集だけでなく当事者が個別に相談できる体制づくりが必要で、空き家は個人の事情もそれぞれあるので、例えば総合事務所にも相談窓口があれば良いのではないか。

また、横尾委員にお聞きしたいが、泉町内会で行っている「棚田のきらめき」のボランティアにいられた人から、「体験がしたい」とか「住んでみたい」というような声はあるのか。

【横尾委員】

移住したいという声はあるが、実際の移住にはつながっていないし、住んでみたいと思ってもらえたとしても、具体的にどのように受け入れれば良いのかが整っていない。イベント自体は、中山間地域が頑張っていること、牧区を知ってもらうことを目的に行っており、こうやって種をまいておけば、どこかで芽が出てくれるのではないかと期待している。そして、農業や田舎に関心をもってもらえれば良い。

【西山会長】

以前、板倉区の地域フォーラムに参加した際、若い女性が地域から出て行ったきり、戻ってこないことが、人口が減り続ける原因であるという話があった。女性にとって魅力的な地域でないと、なかなか戻ってきてももらえないのではないかなと思う。

牧区には、井上委員が言った東荒井の他にも市営住宅があるが、高田や直江津と比べてはっきりと差をつけて家賃を安くした方が良いと思う。

また、何年後かは分からないが、首都直下型の大きな地震が起こると言われている。もし本当に起こったら、東京方面にいる人が地方に移住してくることもあると思うので、その人たちを受け入れる体制を作っておかなくてはならない。それを期待してはいけませんが、想定した話し合いはしていても良いのではないかなと思う。

それでは、時間の都合もあるので「体験・移住」については以上とし、続いて「農業・林業」と「外出支援」について意見がある方は発言をお願いします。

【井上委員】

農業・林業の標語について、「牧区の暮らしに根差す」という部分をもう少し掘り下げてはどうかと感じた。「暮らし」の中身は、牧区の自然や社会の環境に根差したものだと思うが、単に次世代につなぐよりも、振興させつつ、次世代につないでいくという表現にした方が良い。挙げられた取組は素晴らしいものなので、これを進めていけば良いと思う。

【西山会長】

事務局で意見はあるか。

【小暮班長】

議題としては少し戻るが、先ほど井上委員から指摘のあった、「体験・移住」の標語で「牧区の姿に共感」という言葉を用いた意図を申し上げると、発信した情報や実際の体

験で牧区を知った方が「私も牧区で一緒に取り組みたい」「仲間になりたい」という思いを持ってもらうことを共感と捉えて表現したものであるが、井上委員が提案された「尊重」もまた同じような思いであるかと捉えている。また、今ほどの「農業・林業」での「振興させつつ」という表現は、資料に挙げた取組では、農業などの収益力向上や新たな作物の作付けによる農地保全なども含まれていることから、牧区の農業をより良いものにした上で次世代につないでいくという要素があると考えている。委員のご提案はそれがより強いメッセージとして表現できるものになると感じられた。

【西山委員】

梨本委員は、「農業・林業」について何か意見はあるか。

【梨本委員】

牧区には「暮らしに根差した」林業というものはないと思っている。牧区の杉は雪国特有で曲がりがあるものや十分に成長せずに細いものばかりで価値がない。牧区には広葉樹が適している。どちらかという、これまでの暮らしを考えるのではなく、新たなイメージを持ってもらいたい。

【西山会長】

梨本委員は牧区の杉には使い道がないとおっしゃったが、杉林を広葉樹に替えていくには伐採も必要。今ある杉をどうするかという議論も必要ではないか。

【井上委員】

おそらく梨本委員はそこも考えて発言しておられると思う。「暮らしに根差した」という言葉はいろいろな理解の仕方があると思う。自然環境と社会環境を考慮すれば、今の会長の質問への答えに近づけるのではないか。

【梨本委員】

過去は過去として「暮らしに根差す」のはいいが、これからは方向転換していかなければならないと思う。越後杉を柱などに使うと、時間の経過とともに木材が変形して隙間風が入るようになってしまう。

【西山会長】

他に「農業・林業」と「外出支援」について意見はあるか。

(意見なし)

【小林所長】

委員の皆さんから様々なご意見をいただき感謝する。この後も、気づいたことあれば事務局にご連絡をいただきたい。今回の審議は、これらの取組に関係しそうな人や団体についてもご意見をいただくこととしていたが、なかなか難しい内容であるとも思われるので、皆さんからご了解をいただければ、事務局としての案を示させていただきたいが、よろしいか。

(一同了解)

【小暮班長】

これまで行ってきた意見交換などを基に、この取組については、こういった方々が関わりを持つと思われる案を事務局で整理したので、お示しさせていただく。

まず「体験・移住」については、『仲間』を受け入れる態勢の整備」では、市が既に空き家バンクの運営をはじめとする空き家対策に取り組んでいることもあるので、市が、町内会などの協力をいただきながら、これらに取り組む主体になると考えている。

「牧区体験コンテンツの強化」では、越後田舎体験推進協議会や、牧区ふるさと観光振興会、まきにいる、つまり3月に行った意見交換会において、若者女性・体験移住グループとしてご参加いただいた皆さんが、この主体になるのではと考えている。

続いて、「農業・林業」であるが、まず「農業後継者の確保」と「農林業収益力の向上」については、区内の主要な農業者が取組を促すことが考えられ、「遊休農地の利活用」は、山菜の栽培拡大などの営農的な部分があることから、同じく主要な農業者が取組主体と考えられるが、土地利用調整の関係も含まれるので、農業委員会も含めて取組を働きかけることとしてはどうか。

最後に、「外出支援」について、「気軽に外出できる支え合い体制づくり」は、既にこれに取り組んでいる牧振興会と市が両輪となって考えていくこととしてはどうか。「予約型コミュニティバスの利用促進」は、まさに市営バスのことであるので、市が利用促進策を考えて実践する主体になると考えられる。

「みんなで集える居場所づくり」は、集う場所という観点から、公民館が政策的な位置づけを持つとともに、コミュニティプラザが地域活動の拠点という位置づけを持って設置された経緯があることから、その管理を担う牧振興会を加えた、市、公民館、牧振興会の三者がこの取組に関わりを持つと考えられる。

今お示ししたものは、この人たちに必ずやらなければならないということではなく、それぞれの取組に関係しそうな人・団体ということで、事務局案として披露させていただいた。

【西山会長】

今の事務局案について、質問等はあるか。

(質問なし)

【小暮班長】

今回いただいたご意見を元に、取組の内容を再構築し、次回の会議で引き続き審議いただきたい。

【清水副会長】

次回、改めて審議するということなので、他に意見がある方は、事務局に個別に提案していただき、その内容も次回の資料に反映していただきたい。

【小暮班長】

そのように対応する。

【井上委員】

今日のような議題だと、前回の議事録が手元にあった方が良い。次回以降は、開催案内と同じタイミングで配ってほしい。

【小暮班長】

対応を検討したい。

【西山会長】

事務局の説明のとおり、次回の会議において引き続き議論することとし、以上で自主的審議事項を終了する。

続いて、その他連絡事項について、事務局から説明をお願いします。

【霜越主事】

- ・ 次回の地域協議会の開催日：9月16日（火）
- ・ 高田区地域協議会の意見書に対する回答書を配布
- ・ 上越市男女共同参画推進センターからのおたよりを配布

【西山会長】

本日予定していた案件は全て終了した。清水副会長に閉会の挨拶をお願いします。

【清水副会長】

- ・挨拶後、会議の閉会を宣言

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください